

3 レタスパーティシリウム萎凋病の防除対策

ねらいと成果

近年、レタスの髓部が褐変する土壤伝染性病害「レタスパーティシリウム萎凋病」が日本で初めて発生し、漸増傾向にある。まだ防除対策が確立していない。そこで、緊急的防除対策として化学農薬の登録に向けて取り組み、ヒドロキシイソキサゾール剤の効果が高く、薬害もないことを明らかにした。

内容

殺菌剤添加培地での菌糸伸長阻止効果により有効薬剤を選定した結果、ヒドロキシイソキサゾールなどの効果が優れていた。そこで、プランター試験を実施した。滅菌土壤にレタスパーティシリウム萎凋病菌を混和した後、レタス苗を定植した。次に、ヒドロキシイソキサゾール液剤1000倍液を株元に100ml/株でかん注し、また、シメコナゾール粒剤を2g/株

で株元全面に散布した。

1か月後に茎を切断し、髓部の褐変症状を調査し、ヒドロキシイソキサゾール剤は効果が高く薬害が少ないことを確認した(表)。今後は農薬登録促進を進めるため現地試験データを蓄積する。

神頭 武嗣 (農業技セ・病虫害防除部)
(問い合わせ先 電話：0790-47-1222)

表 薬剤の防除効果 (プランター試験)

処 理 区	発病株率(%)	薬 害
ヒドロキシイソキサゾール液剤1000倍液かん注	0	-
シメコナゾール粒剤株元散布	25	+
無処理	40	

注：薬害なし「-」
薬害(葉の黄化・生育抑制)あり「+」

4 レタスべと病に対する有効薬剤の検索

ねらいと成果

近年、淡路地域で厳寒期どりトンネル栽培を中心に本ほ・苗床でレタスべと病が多発している。本病については、国内における知見が少ない上に登録薬剤も少なく対策に苦慮している。そこで、当面の対策として有効薬剤の検索を行った。

内容

南あわじ市賀集の露地トンネル栽培圃場で品種「シスコF」を用い11薬剤を供試し、2004年11月19日～12月27日かけて散布した。発病調査は、収穫直前に発病の程度を5段階に分けて、発病株率及び発病度、防除価を算出した。無処理区での発病株率は60%と多発生であった。その結果、防除価が95以上を示した殺菌剤は、プロパモカルブ塩酸塩液剤、メタラキシル・TPN顆粒水和剤、ベンチアバリカルブ・TPN、アズキシストロビンフロアブルであった(表)。

普及上の留意点

このうち、プロパモカルブ塩酸塩液剤、アズキシストロビンフロアブルはレタスに登録がある。

西口 真嗣 (淡路農技・農業部)
(問い合わせ先 電話：0799-42-4880)

表 レタスべと病に対する各種殺菌剤の防除効果

薬 剤 名	希釈 倍数	発病株 率(%)	発病度	防除価
メタラキシル・TPN顆粒水和剤	1000	5.4	1.4	97
プロパモカルブ塩酸塩液剤	500	5.3	1.3	97
ベンチアバリカルブ・TPN	1000	5.6	1.9	96
アズキシストロビンフロアブル	2000	8.9	2.2	95
無散布		60.0	45.3	

注1：発病程度基準 A：結球葉にまで発病 B：2/3以上の外葉発病 C：1/3～2/3の外葉発病 D：1/3以下の外葉発病

注2：発病度 = $\{(4A + 3B + 2C + D) / (4 * \text{調査株数})\} * 100$